

※当資料は、DWS グループが 2021 年 6 月 2 日に発表したニュースリリースをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳したものです。当ファンドは、当資料作成時点では日本国内での届出が行われていないため、国内の投資家の皆様が投資することはできません。



## ニュースリリース

フランクフルト

2021 年 6 月 2 日

### 「DWSコンセプトESGブルーエコノミー」: 海洋保護に焦点を当てた株式ファンド

- 当ファンドは、「ブルーエコノミー」を支援し、企業の持続可能な活動にプラスの効果をもたらすことを目指します。
- 沿岸や海洋の生態系に関連する企業に焦点を当てています。
- パートナーシップ: DWS は WWF の海洋保護に関する専門知識を活用します。

DWS は新たなグローバル株式ファンドである「DWS コンセプト ESG ブルーエコノミー」を設定、テーマ別 ESG 商品のラインアップを拡大しました。ポール・ブフヴィッツが運用するこのファンドは、「ブルーエコノミー」を支援し、企業の持続可能な活動にプラスの影響を与えることを目指します。その目的を達成するため、当ファンドでは主に沿岸や海洋の生態系に関連する企業の株式に焦点を当てています。

ブルーエコノミーにどれほどの可能性があるかは、次の数字を見れば一目瞭然です。世界自然保護基金 (WWF) は、海洋関連資産の世界的な価値を約 24 兆米ドルとしています。また、海洋が 1 年間に生み出す経済的価値、いわゆる「海洋総生産」は 2.5 兆米ドルで、これは、世界各国の GDP (国内総生産) と比較すると、ブルーエコノミーを世界第 8 位の経済規模に位置づけるほどの額です。海洋は、経済資源としてだけでなく、生態系や生物多様性の保全においても非常に重要であることから、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) は WWF と共同で、海洋関連セクターの中で特に 5 つの分野を取り上げており、「DWS コンセプト ESG ブルーエコノミー」も、これらを投資プロセスに組み込んでいます。

#### 海洋生態系の健全性に焦点を当てる

当ファンドでは、例えば、海洋酸性化の抑制、海洋汚染の削減に貢献する企業や、海洋資源、生態系の持続可能な利用、さらには持続可能な漁業に取り組む企業に焦点を当てています。具体的には、海洋の健全性に貢献し、持続可能な消費、二酸化炭素排出量の削減、水質汚染の防止に注力する企業などです。また、海運・港湾、エネルギー・資源、沿岸観光、水産養殖など、海洋に依存するセクターにも焦点を当てています。

#### 企業との緊密な対話

「私たちは、ブルーエコノミーの持続可能性を高めるためのソリューションを提供する企業に投資しています。しかし、海洋を資源として利用している企業の中でも、将来に向けてより持続可能な行動をとるよう、すでにビジネスモデルの変革に着手している、あるいはその意思を示している企業にも焦点を当てています。」とブフヴィッツは説明します。「それらに加えて、海洋に対して明らかにマイナスの影響を与えているのに、まだ正しい道を歩み始めていない企業を選別して、集中的な対話を行っています。」

## WWF との連携によるエンゲージメントプロセス

DWS は当ファンドにおいて、世界最大の独立系自然保護団体である WWF とのパートナーシップを活用しています。「WWF との緊密な連携によって、対話先の企業に対する具体的かつ測定可能な持続可能性の目標の設定や、それらの定期的な文書化、検討、評価を共同で実施できることを楽しみにしています。」とポール・ブフヴィッツは述べています。

また、WWF のエコノミストであるパリサ・シャヤリも以下のように述べています。「資本の流れを持続可能なビジネスモデルに振り向けることにより、金融業界は地球環境の保護のために極めて大きな力を発揮できます。海洋保護の基準を企業に適用することで、私たちは DWS と協力して海洋関連産業の移行を促進することができます。DWS は投資家として、保有する議決権を利用し、意思決定者との議論において持続不可能なビジネスモデルからの移行の緊急性に注目させることができるという事実は、特に重要な意味を持っています。」

WWF とのパートナーシップにより、DWS はこれまで行ってきた海洋保護への取り組みをさらに拡大しています。とりわけ、世界の海からゴーストネット<sup>※</sup>をなくすために、2019 年から「Healthy Seas」という組織を支援しています (<https://www.dws.com/ghostnets/>)。

※主にプラスチック製の魚網やロープなどのゴミを指す。自然に分解されず幽霊のように海中や海底をさまよい、海の生態系に甚大な影響を与えている。

## ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当ファンドは、当資料作成時点では日本国内での届出が行われていないため、国内の投資家の皆様が投資することはできません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSグループが作成・発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。日本語訳とオリジナル英文資料の内容に相違がある場合には、英文資料の内容を優先します。当資料に記載の見解や見通し等は作成時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

## DWSグループ

DWSグループ（以下DWS）は、約8,200億ユーロ（2021年3月末時点）の運用資産残高を誇る世界有数の資産運用会社です。60年以上の運用実績を有し、ドイツおよびヨーロッパ各地、アメリカ、アジアにおいて優れた運用体制への評価を確立してきました。そして現在、DWSは世界のお客さまから、資産運用のあらゆる分野における総合的なソリューション、持続性および革新性を提供する運用会社として信頼を集めています。

DWSは個人および機関投資家のお客さまに対し、その強固な運用体制を基盤として、すべての主要な資産クラスへのアクセスと成長トレンドを適切に捉えた資産運用ソリューションを提供します。アクティブ、パッシブそしてオルタナティブ運用における多岐にわたる専門性と、ESG（環境、社会、企業統治）投資における積極的な取り組みは、お客さまの期待に応えるソリューションを提供する上で補完的な役割を果たします。エコノミスト、リサーチアナリスト、運用プロフェッショナルが有する専門性と現地に根ざした調査は、DWSのグローバル投資見通しである「CIO View」に集約され、それが戦略的な運用アプローチ策定の根幹となっています。

DWSでは約3,500人のスタッフが、一つのグローバル・チームの一員であるという高い意識を持ちつつ、各国・地域に精通する専門家として活躍しています。我々は資産運用に革新をもたらし、未来に向けた資産運用ビジネスを形作ることを目指しています。

## ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第359号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・公的年金・企業年金運用の長年にわたる経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。